

独和辞典における再帰的表現の記述について

本 田 義 昭

1. はじめに

ドイツ語の動詞には再帰代名詞と結びつく表現が多い。英語にもこのような表現はあるが、出現する頻度および出現形式の多様さの両面でドイツ語のほうが目立っているように思われる。日本のドイツ語学習者のほとんどが既に数年間英語を学んでいることを考えると、動詞と再帰代名詞が結びついた表現がドイツ語学習の際の困難の一つになっている可能性が高い。本稿では独和辞典で動詞を記述するにあたって、このような困難さをできるだけ軽減するためには、再帰代名詞をどのように扱うべきかについて考察する。¹⁾

2. 英和辞典における再帰的表現の記述

英和辞典の中の動詞の記述で再帰的表現がどのように説明されているか、主として『新英和大辞典』、『ライトハウス英和辞典』、『ニューアンカー英和辞典』を調べてみた。現在、非常に多くの英和辞典が出版されており、すべてを把握することはできなかったが、高校生・大学生・一般社会人を対象とした英和辞典で動詞の項目として自動詞・他動詞以外に再帰動詞を設定しているものは、少なくともよく出回っているものの中には、なさそうである。

2.1. 動詞の意味が一つだけで、常に再帰代名詞を伴う場合は他動詞という項目が設定されている。他の2辞典の記述内容もほぼ同様である。

(1) ab・sent …

[発音]—*vt.* [～ oneself で] [...を] 欠席[欠勤]する {from}:
～ oneself from school, a meeting, etc. (『新英和大辞典』, S.8)

2.2. これに対して、再帰代名詞を名詞・代名詞で置き換えることが可能である場合には、3辞典は異なる記述をしているケースが多い。その違いが顕著な例としてhideを取り上げる。

(2) hide² [発音] …

—*vt.* 1 隠す, おおい隠す (conceal); かくまう, かばう :
…用例…/~oneself 隠れる/…用例… (『新英和大辞典』, S.993)

(3) †hide¹ [発音] [動] …

⑧隠す, 覆う; 秘密にする, 見せないでおく; かばう, かくまう : …用例…

—⑨隠れる, 潜伏する : …用例…

hide oneself [動] ⑨隠れる, 身を隠す : The child hid himself behind the curtain. 子供はカーテンの後ろに隠れた。(『ライトハウス英和辞典』, S.655f.)

(4) †hide¹ [発音] [動] … ⑧1…を隠す; (hide oneself) 隠れる, 身を隠す (…). —…用例…/He hid himself under the table. 彼はテーブルの下に隠れた. 2… (『ニューアンカー英和辞典』, S.620)

再帰的表現を, 『新英和大辞典』では用例で示そうとし, 『ライトハウス英和辞典』では動詞の全項目の最後で成句として処理しようとしているのに対して, 『ニューアンカー英和辞典』では「(動詞+oneself)」というパターンを示した後で訳語を記している。『新英和大辞典』は相当の英語力がある使用者を対象としているので, 上記のような簡潔な記述であっても使用者が困ることはなさそうである。他の2辞典は学習辞典であり, それぞれ学習者に対する配慮の跡が見られる。『ライトハウス英和辞典』は再帰的表現を目立たせることに成功しているし, 他方『ニューアンカー英和辞典』では他動詞の訳語と再帰的表現の訳語とがうまく対比されている。

3. ドイツ語における再帰的表現の分布

3.1. 「真の再帰動詞」と「見せかけの再帰動詞」

では, 再帰的表現がドイツ語では実際にどのように分布しているか検討していこう。まず, (5)–(8)の用例を見てみよう。

(5) Sie schämt sich.

(6) Beeil dich!

(7) Sie wäscht sich.

(8) Er hat sich erschossen.

(5)と(7)は一見したところ, 同じ構造をしているような印象を与える。

しかし, Duden (1984:109f.), Helbig/Buscha (1981:210ff.) で示されているように, 両者の間では再帰代名詞の現れ方に大きな相違がある。

i) (5)の再帰代名詞は省くことができないのに対して, (7)の再帰代名詞は省略可能である。

(5a) *Sie schämt.

(7a) Sie wäscht.

ii) (5)の再帰代名詞は他の名詞・代名詞で置き換えることができないのに対して, (7)では置き換えが可能である。

(5b) *Sie schämt das Kind.

(7b) Sie wäscht das Kind.

iii) (5)の再帰代名詞は並列接続詞undによって他の名詞・代名詞と結ぶことができないのに対して, (7)では可能である。

(5c) *Sie schämt sich und das Kind.

(7c) Sie wäscht sich und das Kind.

iv) (5)の再帰代名詞を問うことはできないのに対して, (7)では可能である。

(5d) *Wen schämt sie? – Sich.

(7d) Wen wäscht sie? – Sich.

v) (5)では再帰代名詞を否定できないのに対して, (7)では可能である。

(5e) *Sie schämt nicht sich [,sondern das Kind].

(7e) Sie wäscht nicht sich [,sondern das Kind].

vi) (5)の再帰代名詞は文頭に位置することはできないのに対して, (7)では可能である。

(5f) *Sich schämt sie.

(7f) Sich wäscht sie.

以上のテストから, (5)の再帰代名詞は固有の意味がない述語部分であり, ヴァレンツにも関係しないことがわかる。一方, (7)の再帰代名詞は動詞の目的語であり, 固有の意味を持っている。(6)は(5)と, (8)は(7)とそれぞれ同じグループを形成している。この二つのグループをDuden (1984:109ff.) は「真の再帰動詞 (echte reflexive Verben)」, 「見せかけの再帰動詞 (unechte reflexive Verben)」と呼んでいる。(5)–(8)の再帰代名詞は4格であるが, (9)–(12)のように3格の再帰代名詞もあ

りうる。

(9) Wo hast du dir diese schlechten Gewohnheiten angeeignet?

(10) Das möchte ich mir verbitten.

(11) Er gönnt sich kaum eine Pause.

(12) Du widersprichst dir selbst.

(9), (10)は「真の再帰動詞」の, (11), (12)は「見せかけの再帰動詞」の例である。これらの用例が示すように, 「真の再帰動詞」が3格の再帰代名詞をとるとき, 4格の目的語をとることが多い。

ドイツ語の動詞の再帰的表現はDuden (1984:109ff.) でとりあげられたこの二つのグループのいずれかに属することが多い。しかし, これ以外にも再帰的表現にはいくつかのパターンがある。3.2.-3.9.ではこの問題を検討する。

3.2. sich³ 人・物⁴ ansehen の類

ドイツ語の動詞の中には, 省略可能な3格の再帰代名詞をとるものがある。

(13) Ich sehe [mir] einen Film an.

(14) Er überlegte [sich], ob er das Angebot annehmen sollte.

これらの再帰代名詞は他の名詞・代名詞で置き換えることはできない。

(13a) *Ich sehe dem Kind einen Film an.

(14a) *Er überlegte dem Kind, ob er das Angebot annehmen sollte.

以上のテストによって, これらの動詞は「見せかけの再帰動詞」よりも「真の再帰動詞」に近いことがわかるが, 動詞と常に共起する訳ではないので, 記述の形式にもなんらかの違いが必要であると思われる。

3.3. 利害を表す3格の再帰代名詞を伴う動詞

ドイツ語の名詞・代名詞の3格には利害を表す用法 (Dativus [in]commodi) がある。これは任意添加語であるから省略可能である。

(15) Er kauft [dem Freund] ein Buch.

(16) Ich mache [dem Freund] einen Kaffee.

3格の任意添加語が主語に関係する利害を表すときには, 再帰代名詞が用いられる。

(15a) Er kauft [sich] ein Buch.

(16a) Ich mache [mir] einen Kaffee.

したがって、この場合は再帰代名詞として特別扱いするのではなく、3格の任意添加語の一種として記述する方が妥当である。

3.4. 所有を表す3格の再帰代名詞を伴う動詞

ドイツ語の名詞・代名詞の3格には、動詞によって表現される動作・行為などの対象物（身体の部分や衣類などであることが多い）の所有者を表す用法（Pertinenzdativ）もある。

(17) Ich wasche dem Kind die Hände.

(18) Ich putze dem Kind die Schuhe.

動詞によって表現される動作・行為などの対象物の所有者が文の主語であれば、再帰代名詞が用いられる。

(17a) Ich wasche mir die Hände.

(18a) Ich putze mir die Schuhe.

この4例では、動詞によって表現される動作・行為などの対象物は4格で表現されているが、前置詞とともに用いられる場合もある。

(19) Der Friseur hat ihm ins Ohr geschnitten.²⁾

(20) Ich habe mir in den Finger geschnitten.³⁾

Engel/Schumacher (1976:60), Duden (1984:605,630ff.), Helbig/Buscha (1981:283,557f.) は、所有の3格は補足語として動詞に従属しているのではなく、補足語に従属している、つまり、動詞と所有の3格との間には間接的な従属関係が存在すると考えている。Duden (1984:605f.), Helbig/Buscha (1981:557) は、所有の3格と動詞との間に直接的な従属関係がない根拠として、それを2格あるいは所有冠詞に変換できるとしている。

(21) Ich klopfe meinem Freund auf die Schulter.

(21a) Ich klopfe auf die Schulter meines Freundes.

(21b) Ich klopfe auf seine Schulter.

(22) Ich verbinde dem Kind die Hand.

(22a) Ich verbinde die Hand des Kindes.

(22b) Ich verbinde seine Hand.

しかしこれに対して、Erben (1972:254), Wegener (1985:122ff.), Engel (1988:631) はこのような変換が必ずしもすべての動詞について可能ではないと反論している。たとえば、Wegener (1985:124) は次の用例を挙げて

(23) Ich habe mir die Haare verbrannt.

(23a) Ich habe meine Haare verbrannt.

(23) では、この文の話者がろうそくに火を着けようとした際などに髪の毛を焦がしてしまったことが表されているのに対して、(23a) では話者が既に切っていた自分の髪の毛を焼いたことが表されているとして、所有の3格を使った文と所有冠詞を使った文では意味が異なる場合があることを指摘している。また、Engel (1988:631) によれば、(24) の所有の3格 mir を所有冠詞 meinen に変換して出来上がった (24a) は非文であるとされる。

(24) Massierst du mir den Rücken?

(24a) *Massierst du meinen Rücken?

3.5. 4格の再帰代名詞および形容詞と結びつく自動詞

ドイツ語の自動詞の中には、4格の再帰代名詞および様子・状態を表す形容詞とともに用いられるものがある。

(25) Er hat sich krank gearbeitet.

(26) Du hast dich satt gegessen.

これらの表現では、主語がある動作・行為をしてその結果ある状態になることが表される。

3.6. 難易などを表す形容詞を伴う再帰的表現

本来は他動詞の4格目的語であるものが主語となり、4格の再帰代名詞および難易などを表す形容詞とともに用いられることがある。

(27) Dieses Buch liest sich leicht.

(28) Dieser Artikel verkauft sich gut.

この場合、主語はふつう物か事柄である。

3.7. 非人称の es を主語とする再帰的表現

自動詞が非人称の es を主語として、4格の再帰代名詞および難易などを表す形容詞とともに用いられることがある。さらに、場所・時刻・道具などを表す語句もその文の中に現れて、ある動作・行為がどのような条件下で行われるかが示される。

(29) Hier lebt es sich gut.

(30) Mit diesem Bleistift schreibt es sich schlecht.

この場合、文の中で表されている陳述内容はだれにでもあてはまる事柄である。

3.8. lassenを伴う再帰的表現

「lassen + 4格の再帰代名詞 + zuのない不定詞」という構文で「…される」という受動の可能性が表現される。この場合、難易などを表す形容詞を伴うことが多い。

(31) Das Fenster läßt sich schwer öffnen.

(32) Der Wein läßt sich trinken.

この2例では、本来は他動詞の4格目的語であるものが主語になっている。また、この構文は非人称のesを主語とすることもある。この場合、zuのない不定詞は自動詞である。

(33) Hier läßt es sich leben.

3.9. 相互的に用いられた再帰的表現

主語が複数の場合、再帰的表現は「お互いに…し合う」という意味を持つことがある。

(34) Die Geschwister helfen sich.

(35) Sie küßten sich.

(36) Wir haben uns um drei Uhr verabredet.

なお、manやPaarなどのように形式的には単数であっても意味的に複数である名詞・代名詞も、相互的な構文の主語になることができる。

(37) Man grüßte sich freundlich.

(38) Das Ehepaar liebt sich nicht mehr.

再帰代名詞を含む文の主語が複数のときには、それがふつうの再帰代名詞なのか相互代名詞として使用されているのかあいまいな場合がある。たとえば、次の例文(39)は、(39a)のように「主語の各人が自分の髪を櫛でとくす」意味と、(39b)のように「主語の各人がお互いの髪をとくし合う」意味の両方にとれ、二義的である。

(39) Klaudia und Petra kämmen sich.

(39a) Klaudia kämmt sich, und Petra kämmt sich.

(39b) Klaudia kämmt Petra, und Petra kämmt Klaudia.

再帰代名詞を含む文に形容詞のgegenseitigを加えるか、または再帰代名詞の代わりに相互代名詞のeinanderを用いれば、その文には相互の意味だけしかないことが明瞭になる。ただし、einanderは現在ではふつう雅語であると感じられる。

(34a) Die Geschwister helfen sich gegenseitig.

(34b) Die Geschwister helfen einander.

(39c) Klaudia und Petra kämmen sich gegenseitig.

(39d) Klaudia und Petra kämmen einander.

相互的な再帰代名詞を伴う動詞は、再帰代名詞の現れ方によって二つのグループに分類される。第一のグループは、ある特定の意味項目において相互的な再帰代名詞を常にとる動詞である。⁴⁾

(40) Fritz und Peter haben sich schnell angefreundet.

(41) Wir haben uns verlobt.

このグループの動詞では、主語を単数にして、主語と相互関係にある人または事物をmitの前置詞句で表すこともできる。しかしこの場合、主語が単数であるから再帰代名詞が相互的であるとはいえなくなる。

(40a) Fritz hat sich mit Peter schnell angefreundet.

(41a) Ich habe mich mit ihm verlobt.

第二のグループは、再帰代名詞を他の名詞・代名詞で置き換えることが可能な動詞である。つまり、主語と同じ人または事物を指す語句がたまたま動詞の目的語になっていると考えられる。

(42) Wir kennen uns nur vom Sehen.

(42a) Wir kennen den Mann nur vom Sehen.

(43) Wann sehen wir uns wieder?

(43a) Wann sehen wir die Dame wieder?

4. 独和辞典における再帰的表現の記述

前章ではドイツ語の再帰的表現がどのような分布をしているかが概観された。これを受けて本章では、再帰的表現を独和辞典の中でどのように記述すべきかについて検討していく。なお、以下の具体例は筆者が編集執筆に関係した『アポロン独和辞典』から採用している。

ドイツ語は英語よりも再帰的表現が多く使用されるので、動詞がある特定の意味項目において再帰代名詞を常にとる場合は、自動詞・他動詞とは別に再

帰動詞という項目を設定する方が学習者が検索する際に便利であろう。したがって、当該の意味項目で再帰代名詞を必ずしもとらない場合は、自動詞または他動詞の項目の中で再帰的表現を記述することになる。

もっとも、再帰的表現の記述がすべて整然とパターン化される訳ではない。ドイツ語に限らず言語はそれを使用する人間の生活を反映しているので、すべての言語現象を例外なく規則的に説明できる文法体系を求めることは無理であろう。また、記述の場が独和辞典であるので、辞典全体の記述とのバランスも考慮されなければならない。具体的には、再帰的表現であっても熟語・慣用句などは個別的に処理しなければならないケースが起こりうる。さらに、ドイツ語学習者の便宜を考えれば、当該の再帰的表現の重要度も問題になる。記述パターンの原則に従えば簡素な形式で処理すべき再帰的表現でも、それが日常よく使う重要なものであれば、学習者の目を引くように記述を目立たせるような工夫をしなければならないケースも起こりそうである。

4.1. 「真の再帰動詞」と「見せかけの再帰動詞」

前章の3.1. では(5), (7)を例として「真の再帰動詞」と「見せかけの再帰動詞」とが区別された。「真の再帰動詞」はある特定の意味項目では再帰代名詞を常にとるので、再帰動詞という項目の中で記述されるべきである。これに対して、「見せかけの再帰動詞」は再帰代名詞がたまたま目的語になっているだけなので、自動詞または他動詞の項目の中で「◇《再帰的に》」という説明を用例の前に付けて辞典使用者の注意を喚起すればよいだろう。

では、次のようなケースは上の二つの記述形式のどちらで処理すればよいだろうか。

(44) Sein Einfluß verstärkt sich.

(45) Ich ärgere mich über sein Benehmen.

この二つの例文では、他動詞の4格目的語であったものが再帰的表現の主語になっている。また、動詞と再帰代名詞がいっしょになって一つの概念を形成している(一種の自動詞化が起こっている)。さらに、対応する他動詞の構文と同じ内容のことを再帰的表現でパラフレーズしようとする、(45)のように他動詞の構文には存在しない前置詞を必要とする場合が少なくない。したがって、これらは再帰動詞の項目の中で記述する方が妥当であろう。

(45a) Sein Benehmen ärgert mich.

具体的な記述例として「真の再帰動詞」から三例, 「見せかけの再帰動詞」から二例示すことにする。

(46) *schä · men [発音] … 再帰 (完了 haben) sich⁴ schämen ① 恥じる, 恥ずかしく思う。(英 be ashamed). Schäm dich!
《口語》(そんなこと言って・して) 恥ずかしく思いなさい/…

(47) *an | eig · nen [発音] … 再帰 (完了 haben) sich³ 物・事⁴ aneignen
① (事⁴(知識・習慣など)を) 習得する, 身につける。(英 acquire). sich³ eine Fremdsprache⁴ aneignen 外国語を習得する/…

(48) *är · gern [発音] … I 他 (完了 haben) (人⁴)を) 怒らせる, 立腹させる, いらだたせる. …

II 再帰 (完了 haben) sich⁴ ärgern 腹を立てる, 怒る.
sich⁴ über 人・事⁴ ärgern 人・事⁴に腹を立てる⇒Ich habe mich über ihn geärgert. 私は彼のことで腹を立てた/…

(49) *wa · schen* [発音] … 他 (完了 haben) ① 洗う; (気体⁴)を) 洗浄する; (鉱石など⁴)を) 洗鉱する。(英 wash). …

◇《再帰的に》sich⁴ waschen 自分の体を洗う⇒Er wäscht sich jeden Morgen. 彼は毎朝体を洗う/…

(50) *wi · der · spre · chen* [発音] … 自 (完了 haben) (英 contra-dict) ① (人・事³)に) 反論する, 異論(異議)を唱える. …

◇《再帰的に》sich³ widersprechen (前言と) 矛盾したことを言う. ② …

4. 2. sich³ 人・事⁴ ansehen の類

このタイプの再帰的表現では, 再帰代名詞を他の名詞・代名詞で置き換えることはできないが, 再帰代名詞を省略することは可能である。この場合, ヴァレンツとして3格をとる訳ではないので, 用例の前に付ける説明は「◇《再帰的に》」ではなく, 「◇《再帰代名詞(3格)とともに》」とすべきである。

(51) *an | se · hen* [発音] … I 他 (完了 haben) ① …

② (関心を持って) 見る, 見物(観察)する. … ◇《再帰代名詞(3格)とともに》 sich³ 人・事⁴ ansehen (関心を

持つて) [人・事]⁴ を見る ⇒ Ich sehe mir einen Film an. 私
は映画を見る/…

4.3. 利害を表す3格の再帰代名詞を伴う動詞

利害を表す3格の再帰代名詞は他の名詞・代名詞と置き換えることができる。また、任意添加語であるから省略可能である。これは動詞の記述の中では特別な説明なしで用例だけが示されることが多い。(16), (16a)を句で示した記述は『アポロン』には記されていないが、あるとすれば、次のような形式になるであろう。

(52) *ma·chen [発音] … I [他] ([完了] haben) ① …

②作る, 製造する. …/ [人]³ (sich³) einen Kaffee machen
[人]³ に(自分用に)コーヒーを入れる/…

ただし, kaufenのように重要度の高いものは, 学習者の目に留まるように上の例よりも目立つ記述をする必要がある。

(53) *kau·fen [発音] … I [他] ([完了] haben) ① 買う, 購入する.
… ◇《再帰代名詞(3格)とともに》sich⁴ [物]⁴ kaufen (自分用に) [物]⁴ を買う ⇒ Ich kaufe mir ein Auto. 私は車を買う/…

4.4. 所有を表す3格の再帰代名詞を伴う動詞

所有を表す3格の再帰代名詞は原則的に他の名詞・代名詞と置き換えることが可能であるから, この構文で現れる動詞に対して再帰動詞という項目を設定することはしない。

そうすると, 自動詞または他動詞の項目の中でこの種の再帰的表現をどのように記述すればよいか問題になる。最近刊行されたとの独和辞典も, (54)のように, 動詞の各意味項目の最初に必要に応じてヴァレンツを示している。

(54) er·spa·ren [発音] [他] ([完了] haben) … ② ([人]³ に勞力・心配など⁴ を) 省いてやる, 免れさせる. … ◇《再帰的に》sich³ [事]⁴ ersparen [事]⁴ をしないで済む:

上の例で, ヴァレンツとして必要な「[人]³」の代わりに再帰代名詞を使用できることが「◇《再帰的に》」という説明で示されている。それでは, 所有の3格をヴァレンツとみなすべきだろうか。

ドイツ語では一般に所有関係を表すのに、2格、所有冠詞、所有の3格のいずれかが使用される。前二者がどの名詞についても用いられるのに対して、所有の3格が用いられる名詞は身体の部分や衣類など特定の名詞に限られる。つまり、所有の3格とそれがかかる名詞との間には従属関係が存在している。次に、所有の3格と動詞との関係を考えてみよう。(55)－(57)の文中の動詞は、3.4.では所有の3格とともに用いられていたが、所有関係を問題にしない文においても、3.4.のときと同じ意味で使用されている。

(55) Ich wasche den Wagen.

(56) Ich putze die Schuhe.

(57) Ich klopfe auf den Tisch.

上の例から、所有の3格が文中に現れるか否かは動詞とは直接関係がないことがわかる。つまり、少なくともこれらの動詞に関しては、所有の3格はヴァレンツではないことになる。

それでは(23), (23a)で指摘された**verbrennen**の問題はどのように処理すればよいだろうか。この動詞は「やけどさせる(する)」という意味では次のように使用される。4格目的語が人間である場合は、それが再帰代名詞であることが多い。一方、4格目的語が身体の部分であるときは、3格の再帰代名詞を伴う。前者は他動詞として処理できる。後者は(58)のように再帰動詞の項目を設けるか、または、(59)のように他動詞として処理する、という二つの方法がまず考えられる。この二つの記述方法の違いは再帰動詞の定義の仕方にかかっている。

(58) *ver・bren・nen* [発音] …

II 他 (完了) haben) ① … ② (人⁴を) やけどさせる.

◇《再帰的に》*sich⁴ verbrennen* やけどする. ③ …

III 再帰 (完了) haben) *sich³ 物⁴ verbrennen* 物⁴(手足など)をやけどする.

(59) *ver・bren・nen* [発音] …

II 他 (完了) haben) ① … ② (人⁴を) やけどさせる.

◇《再帰的に》*sich⁴ verbrennen* やけどする. ③ 《*sich³*

物⁴～》(物⁴(手足など)を) やけどする.

どちらの記述方法も正確ではあるが、次のような問題点がある。1) 所有の3格の扱いが他の動詞の場合と異なっているので、不統一な印象を与え

る。2)「やけどさせる(する)」に関する意味項目が2カ所に分かれており、相互の関係がわかりにくい。3) 所有の3格(この場合はsich³)と動詞との間に従属関係があるように見える。そこで私たちは(60)の記述方法をとることにした。

(60) *ver · bren · nen* [発音] …

II 他 (完了 haben) ① … ②(人⁴・手足など⁴を)やけどさせる. sich³ die Hand⁴ *verbrennen* 手をやけどする。
◇《再帰的に》Ich *habe mich* am Bügeleisen *verbrannt*.
私はアイロンでやけどした. ③ …

これは上の二つと比べると、sich³の扱い方では厳密さにやや欠けるが、日本のドイツ語学習者にとっては最も理解しやすい記述方法ではないだろうか。(24)のような例文では所有の3格が必ず必要であるという問題も、この記述方法をとれば、うまく処理できる。

(19), (20)のように身体の部分などが前置詞句である場合の記述は次のようになる。

(61) *schnei · den* [発音] …

II 自 (完了 haben) ① …
②《in 物⁴ ~》(物⁴を)誤って切る, 切って傷つける. …
/ 人³(sich³) in den Finger *schneiden* 人³の(自分の)指を誤って切る. ③ …

4.5. 4格の再帰代名詞および形容詞と結びつく自動詞

このタイプの再帰的表現は次のように記述できる。

(62) *ar · bei · ten* [発音] …

II 再帰 (完了 haben) sich⁴ *arbeiten* ① 働いて [その結果] …になる. Er *hat sich* krank *gearbeitet*. 彼は働きすぎて病気になった. ② …

4.6. 難易などを表す形容詞を伴う再帰的表現

このタイプの再帰的表現は次のように記述できる。

(63) *ver · kau · fen* [発音] …

II 再帰 (完了 haben) sich⁴ *verkaufen* ① 売れ行きが…である. Dieser Artikel *verkauft sich* gut (schlecht). こ

の商品は売れ行きがよい(悪い). ② …

4.7. 非人称のesを主語とする再帰的表現

このタイプの再帰的表現は次のように記述できる。

(64) *le・ben [発音] …

Ⅲ 再帰 (完了 haben) … 《es lebt sich⁴…の形で》暮ら
しぐあいが…である。Hier lebt es sich gut. ここは暮らし
やすい。

4.8. lassenを伴う再帰的表現

このタイプの再帰的表現はlassenの見出し語の中で次のように記述される。

(65) *las・sen* [発音] I 助動 (完了 haben) …

④ 《[人・物]¹ läßt sich⁴…の形で》[人・物]¹が…される, …
できる。Er läßt sich leicht täuschen. 彼はだまされやす
い/… ◇ 《非人称のesを主語として》Hier läßt es sich le-
ben. ここは暮らしやすい。…

lassenと結びつく不定詞の数は非常に多いので、そちらの見出し語の方
ではこのタイプの再帰的表現で特に重要なものだけが用例として記されるに
過ぎない。

4.9. 相互的に用いられた再帰的表現

この構文で用いられる動詞は、再帰代名詞の現れ方によって二つのグルー
プに分けられる。第一のグループは、ある特定の意味項目において相互的
な再帰代名詞を常にとる動詞であるが、これは次のように記述される。

(66) *ver・lo・ben [発音] … I 再帰 (完了 haben) 《sich⁴ [mit 囚³]
～》([囚³と]) 婚約する。Er hat sich mit ihr verlobt.
彼は彼女と婚約した/Sie haben sich heimlich verlobt. 彼
らはひそかに婚約した。

Ⅱ 他 …

第二のグループは、再帰代名詞を他の名詞・代名詞で置き換えることが可
能な動詞である。このような動詞は次のように記述される。

(67) *ken・nen* [発音] … I 他 (完了 haben) ① (見聞き・体験し
て) 知っている ; (囚⁴と) 知り合いである。… ◇ 《相互的

に》 *Wir kennen uns*⁴ schon! 私たちは前から知り合いです (もうお互いに紹介してもらいました)。

② …

5. おわりに

他のさまざまな言語現象と同様に、ドイツ語の再帰的表現も多様な分布をしている。日独両言語の間に独和辞典という橋を架ける際の一つの重要な課題である再帰的表現の記述方法について論じてきたが、所有の3格についてはまだ未解明なことが多いようである。この方面でのより正確な言語学的研究と、それをふまえての辞書編集方法の発展が望まれる。

注

- 1) この論文での考察は、筆者が一員として携わった『アポロン独和辞典』の編集作業の過程における議論に負うところが大きい。貴重な意見・提案をいただいた上記辞典の編集執筆者の方々に謝意を申し上げる。
- 2) 3格の人称代名詞*ihm*の他に、4格の人称代名詞*ihn*も可能である。
- 3) 3格の再帰代名詞*mir*の他に、4格の再帰代名詞*mich*も可能である。
- 4) Duden (1984:111f.)はこのグループをさらに二つに分けているが、本稿の議論には影響しない。

参考文献

- Duden (1984):Grammatik der deutschen Gegenwartssprache. Mannheim.
Engel, U. (1988):Deutsche Grammatik. Heidelberg.
Engel, U./Schumacher, H. (1976):Kleines Valenzlexikon deutscher Verben.
Tübingen.
Erben, J. (1972):Deutsche Grammatik. München.
Helbig, G. /Buscha, J. (1981):Deutsche Grammatik. Leipzig.
Helbig, G. /Schenkel, W. (1973):Wörterbuch zur Valenz und Distribution
deutscher Verben. Leipzig.
Hentschel, E. /Weydt, H. (1990):Handbuch der deutschen Grammatik.
Berlin.
Wegener, H. (1985):Der Dativ im heutigen Deutsch. Tübingen.
『アポロン独和辞典』同学社 1994.
『郁文堂独和辞典・第二版』郁文堂 1993.
『クラウン独和辞典』三省堂 1991.
『新アルファ独和辞典』三修社 1993.
『独和大辞典』小学館 1985.
『プログレッシブ独和辞典』小学館 1994.
『マイスター独和辞典』大修館 1992.
『新英和大辞典』研究社 1980.
『ニューアンカー英和辞典』学習研究社 1988.
『ライトハウス英和辞典』研究社 1984.